

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	佐土原町立広瀬小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特設	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	3	2	21	
児童数	96	105	110	88	97	98	8	602	30

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上をめざした学習指導方法の工夫
 ～基礎・基本を重視した、個に応じた指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

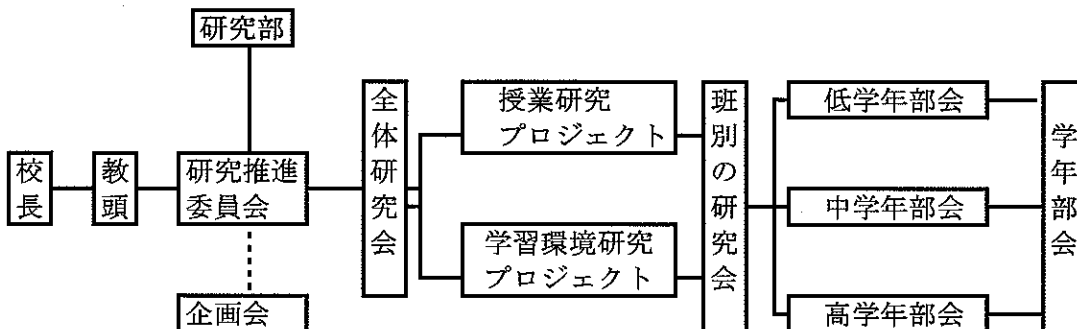
・全学年 ・算数
 学力テストの分析より、国語に比べて平均点が劣っているという実態があり、また、児童の理解の程度の差が生じやすい教科であると判断したため。

(2) 年次ごとの計画

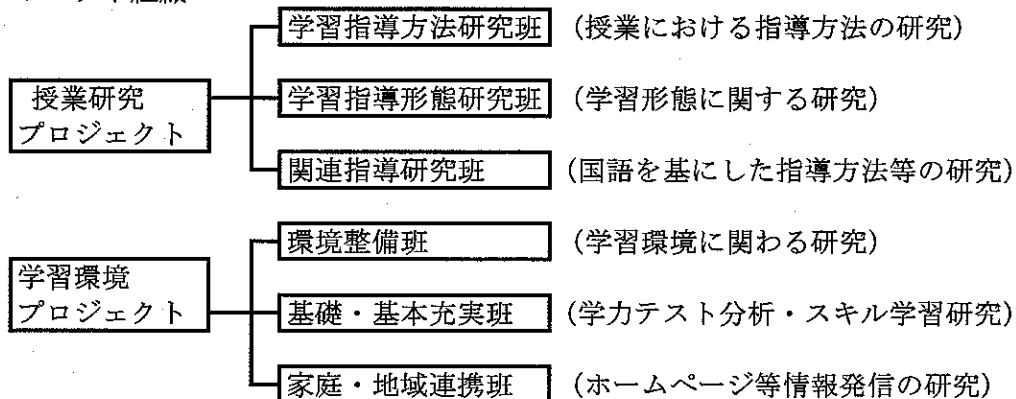
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 「基礎・基本を重視した個に応じた指導方法の工夫」 ○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎・基本を重視した、個に応じた分かる指導を工夫すれば、確かな学力が身に付き、進んで学習する子どもが育つであろう。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力テスト分析と開発・作成 ・ スキル学習の開発・実施 ・ 朝の活動（あすなろ）の時間の在り方 ・ 家庭学習の在り方 ・ 学習形態の工夫（少人数・習熟度等） ・ 効果的な教科担任制の検討及び試行 ・ 授業における学力向上の検討
--------	--

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 「目に見える学力向上のための個に応じた指導方法の工夫」 ○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人一人に分かる喜びや達成感，成就感を味わわせるための指導方法や学習環境はどうあればよいか。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ より効果的な習熟度別学習の研究 ・ スキル学習の実施・深化 ・ 発展的問題・補充的問題の開発・工夫 ・ 多人数における習熟度別学習の在り方の研究 ・ 基礎・基本の充実 ・ 基本的学習習慣の確かな確立 ・ 家庭・地域社会との連携強化 ・ 小中連携の発展・深化
--------	---

(3) 研究推進体制



プロジェクト組織



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

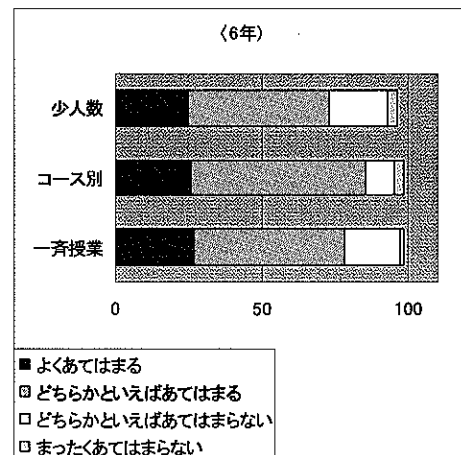
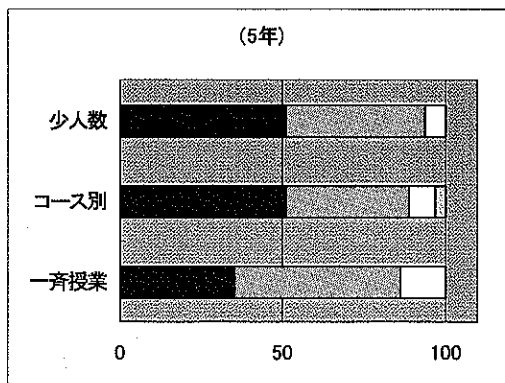
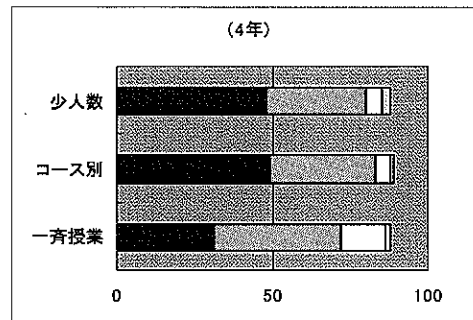
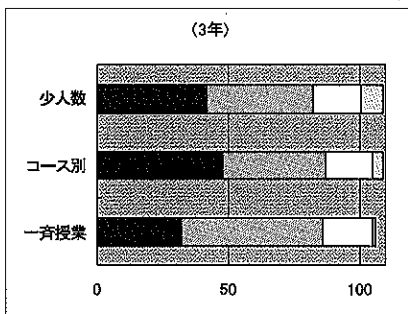
① 組織

- 本校においては、研究のスムーズな実践や効率化を図るために、組織を大きく授業研究プロジェクトと学習環境プロジェクトの2つに分け、それをまた3つに分けるという組織作り(学習指導方法研究班・学習指導形態研究班・関連指導研究班と環境整備班・基礎基本充実班・家庭、地域社会連携班の6つの班)を行った。そのために、個人個人がやるべき仕事が明確になり、目的を持って意欲的に取り組むことができた。

② 授業形態の工夫

- 習熟度別学習(本校ではコース別学習としている)に対する共通理解を図り、中・高学年で実施を行った。本人や保護者の希望を基に「しっかりコース」と「じっくりコース」に分けて指導した。子どもたちや保護者からの評価も高く、今回は算数で行ったが、国語等他の教科でもやって欲しいという声も聞かれた。それぞれの授業を終えた後の児童の意識調査は次のようになった。

- 勉強の内容がよく分かる。



- 1学期は教科担任制までは行き着かず、若干の交換授業(6年の2クラスだけで算数と家庭科を入れ替えた)を行うに留まっていた。しかし、交換授業に対する子どもたちの興味関心が高いために、綿密な計画の基に10月下旬より3週間の教科担任制を実施した。

③ 基礎・基本の充実

- 基礎・基本の定着を図るためには、まず、子どもたちの実態を把握することが必要と思ひ、昨年度の学力テスト及び本年度の学力テストの分析を行った。(1年生は昨年度の実態を参考)そこで、陥没点の洗い出しを行い、今後の指導に役立てることにした。
- 計算力の向上を図るために「チャレンジタイム」を創設し、繰り返しのドリル学習を全学年で計画的に行っている。月・水・金の朝の活動の時間のわずか5分間であるが、継続的に行うことが必要と感じて、取り組んでいる。授業の前のウォーミングアップとして、成果が上がってきている。

④ 学習環境の整備

- 昨年までの継続研究として、それぞれの学年に国語科コーナーが設置されていて、ことばに対する興味・関心を持たせることができた。そこで、本年度は算数科コーナーを設置し、算数に対する興味を視覚や実体験、操作活動から持たせようと思っている。
- 中校舎と北校舎を結ぶ渡り廊下、北校舎のワークスペースなどを利用して算数に親しむための「算数体験コーナー」を設置する予定である。買い物ゲームやパズルや積み木、すごろくなど低学年から高学年の子どもが興味を持って取り組めるような内容を考えて準備を進めている。

2. 今後の課題

① 組織

- 細かく組織を分けたことにより、作業の効率化は図られたものの、班相互の連絡調整がうまくいかずに、全体的な流れが全職員に徹底していない面があった。研究推進委員会や全体研、班長会等を多く取る必要があると感じた。

② 授業形態の工夫

- 教科担任制を行うにあたって、時間割作成の困難さを感じた。専科や体育や少人数指導などを考えて、3クラスが空いている時間を確保するのは、思った以上に大変であった。学年当初からの教務との綿密な計画が必要である。

③ 基礎・基本の充実

- 基礎・基本の充実を図るためには、学校での学習だけでなく、家庭学習も重要である。家庭学習については、発達段階に応じた系統的な計画がしっかりとなされていないので、今後、全職員の共通理解を含めて、効果的で、子どもたちが意欲を持って取り組めるような家庭学習の在り方について研究していきたい。

④ 学習環境の整備

- 算数科コーナーの作成の時間がなかなか確保できない。ワークスペースが無い学年のコーナーの設置の場所が問題である。

⑤ 家庭・地域社会の連携

- 児童の画像が使えないなどで内容が制約されてしまうことや人材リストをどの程度まで公表していくかなどが問題である。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- * 教研式学力診断テスト
 - 1 調査の目的
 - ① 理解状況を把握し、2, 3学期の指導に生かす。
 - ② 継続調査（毎年）を行い、各学年の伸びや課題について、比較したり、学校全体の学習指導や評価の改善に生かす。
 - 2 実施内容
 - ・ 2学年から6学年までの国語と算数（1学年は実施しない。）
 - ・ 範囲は5月実施のため、全学年の内容となる。
 - 3 時期
 - ・ 5月上旬～中旬に毎年実施

- * 「小学校基礎学力調査」
 - 1 調査の目的
 - ・ 県内全体の児童の学力を調査し、今後の指導に役立てる。
 - 2 実施内容
 - ・ 3学年と5学年の国語と算数
 - 3 時期
 - ・ 10月下旬

- * 到達度学力診断テスト
 - 1 調査の目的
 - ① 本校の学習内容の習得状況を把握する。
 - ② 結果を今後（次年度の引き継ぎを含む）の指導に生かす。
 - ③ 来年度の学級編成及び校内主題研の資料とする。
 - 2 実施内容
 - ・ 1学年から6学年までの国語と算数。
 - ・ 6学年のみ社会・理科を加えた4教科を実施
 - ・ 範囲は、現学年の4月～2月の既習内容
 - 3 時期
 - ・ 2月上旬に毎年実施

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | | | |
|----------|----|--|
| * 研究発表会 | 日時 | 平成16年11月中旬（予定） |
| | 場所 | 本校（佐土原町立広瀬小学校） |
| | 対象 | 小中教員，保護者，地域住民 |
| | 目的 | 本校が取り組んできた研究の成果発表と普及 |
| * ホームページ | | 本年度（平成16年3月にアップ予定）
次年度8月までに、改訂版完成予定 |
| * 研究紀要 | | 平成16年10月完成予定
研究発表時に配布 |

- ◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無